

解答

問1 理不尽なことと戦つてきた父に対し、医療ミスをして銚子に転勤させられたのだというでたらめな噂が「」でも流れていることを知り、激しい怒りを感じている。

問2 A イ B キ

問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

ア 信頼していた佐丸の母親がわざと噂を流していると聞き、信じられないと同時に、裏切られたと強く感じたから。

問5 なぜ「ぼく」が、佐丸の母親や父親のことを聞いているのかわからず、訝しく思っている。

問6 転校以来、ずっと親切にしてくれた佐丸を信頼していただけに、佐丸の母親が本当にうわさを流している張本人であるとするならば、強く信頼していただけに、相応の落胆を感じている。

問7 1 佐丸のお母親がでたらめな噂を流しているという上村の話が、嘘か本当かということ。

2 上村の話が本当なら、佐丸が「ぼく」を嫌つていて陥れようとしているように思えるが、一方で、これまで信頼し続けてきた佐丸がそのようなことをするわけがないと、心が揺れ動いている。

問8 佐丸の本心を知ることから逃げ出し、この先どのようにしたら良いのか決めきれず、独りぼっちで途方に暮れている気持ち。

問9 岩になってしまえば、親友の佐丸を疑つたり問い合わせたりすることから解放されるから。

問10 問11 問12 問13 問14 問15 問16 問17 問18 問19 問20

お父さんと話をしたことで、人間関係に苦しみ解放され心穏やかになり、誠実に思いやりを持つて前向きに生きようと考えられるようになつたということ。

1 誠実で、優しさや思いやりを持った人間。

2 信頼していた友達が、自分を裏切つていたのではないかと疑いを持つが、眞実を確かめようとせずに逃げ出してしまう。しかし、父親と話をするうちに、友人を疑うのではなく、自分が精一杯誠実に生き、優しさや思いやりを忘れないことが大切であることが理解できたから。

二	
① 察知	② 格段
⑦ 貴婦人	⑧ 息災
⑯ 眼力	⑨ 熟練
⑯ ちょうほう	⑩ 街路樹
みめ	⑪ ゆだ (ねる)
	⑫ こと
	⑬ われさき
⑮ 派生	⑭ 沿革
	⑮ 模造紙
	⑯ 浅(まし)
⑯ 誤(り)	⑰ 易者

解説

問1 直前に、「口惜しさと憤り」という気持ちを表す言葉がありますので、それを、設問の指示に従つて「自分の言葉」に直すと「激しい怒り」や「押さえきれない苛立ち」等になるでしょう。また、その原因となる出来事は、上村が「ぼく」の父が医療ミスをしたことによって銚子に転勤させられた、といううわさが流されている」と言つたことが原因ですね。傍線部の直前の「ぼく」の発言を参考にしましょう。

問6 転校して以来、佐山が「ぼく」に親切にしてくれたおかげで、「ぼく」は、何事もない穏やかな日々を過ごしてきたが、信頼してきだけに裏切られたという思いが強く、深く悩んでいるのです。

問7 主人公の心情を辺りの情景を描くことで、間接的に表現しています。ここではどんよりと広がつた夕闇の中、独りぼっちで、解決方法を見つけることも出来ずに、途方に暮れている状況です。

問8 銚子は佐丸との思い出だらけであり、「ぼく」は、まだこの時点でも厚い信頼を寄せていました。一方で、上村の言葉が、間違いや嘘であるとも疑つていません。「こでは、問題を解決するのではなく逃げ出したいといふ「ぼく」の弱気な心が描かれています。

問9 「仲がいいと思っていた人にも心ない態度を取られた」経験のあるお父さんから、「なくしたくない」という気持ちが強いから、恐くなるんだ。「自分は自分で精一杯やるしかないんだ。」「優しさや思いやりを持つていれば、必ず気づいてくれる人がいる」と励ましてくれました。そんな信頼できるお父さんの言葉から、悩みが消えてしまいました。